

# St. Luke's International University Repository

養護概説における実践力向上を目指した取り組み:  
健康診断演習を通じて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浦口, 真奈美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.34414/0002000179">https://doi.org/10.34414/0002000179</a>

# 養護概説における実践力向上を目指した取り組み

## —健康診断演習を通じて—

浦口真奈美

### A report to Improve Practical Skills in School Health Nursing —Through Exercises related to Health Checkups at School—

Manami URAGUCHI

#### [Abstract]

School nurses face various job-related challenges, including the lack of sufficient on-the-job training. Among these challenges, the health checkups conducted at the beginning of the school year pose a significant hurdle for school nurses, whether they are new or experienced. Carrying out health checkups requires not only knowledge and skills related to the overall duties of a school nurse but also collaboration with other school staff, making it necessary for adequate training during the preparatory period. In this article, we describe the implementation of health checkup exercises in the 3rd year of the undergraduate program for school nursing at St. Luke International University. These exercises aimed to bring students closer to real-life situations and incorporate various elements of the school nursing job while utilizing the school nurse training core curriculum. In 2023, these exercises were conducted with 18 students who were taking the school nursing overview course. As a result, we were able to obtain responses regarding the usefulness of the health checkup exercises, not only in terms of specialized knowledge related to health checkups but also in understanding the characteristics of students and the need for innovation in collaboration with school staff. Going forward, the challenge lies in further developing the exercise content to enhance its effectiveness.

[Key words] School Nurses Training, Health Checkups, Core Curriculum, Practical Report

#### [要旨]

養護教諭は十分なOJTが受けられない等の理由から、さまざまな職務上の悩みに直面している。特に年度初めに実施される定期健康診断は、新任期はもとより経験者であっても着任直後の養護教諭にとって大きな課題となっている。健康診断の実施には養護教諭の職務全般に関わる知識やスキルに加え、教職員との協働が求められるため、養成期間に十分な学修が必要である。本稿では養護教諭養成課程コアカリキュラムを活用し、より実際の場面に近づけ職務のさまざまな要素を取り入れた健康診断演習を、聖路加国際大学教職課程の2023年度養護概説において学生18名に対し実施した内容を報告する。本演習で得られた学びに関する学生へのアンケートから、直接的に健康診断に関わる内容に加え、児童生徒の特性理解、教職員との協働への工夫等、職務全般の実践力に関連する内容が確認された。今後、さらに演習内容を発展させ、学習効果を高めていくことが課題である。

[キーワード] 養護教諭養成, 健康診断, 養護教諭養成課程コアカリキュラム, 実践報告

## I. はじめに

近年の児童生徒の健康課題の多様化、深刻化に伴い、児童生徒の健康保持増進における学校保健活動への期待は高まり、なかでも活動の中心的役割、および教職員間のコーディネーター役割を担う保健医療の専門職である養護教諭の役割が注目されている<sup>1)</sup>。養護教諭の職務は、「保健管理」、「保健教育」、「健康相談および保健指導」、「保健室経営」、「保健組織活動」の5つに整理され多岐にわたる<sup>2)</sup>。しかし養護教諭のほとんどは、各学校に1人あるいは少数配置であるため、十分なOJT(on the job training)を受けられない等の理由からさまざまな職務上の悩みに直面している。特に、新任期はもとより経験者であっても、学校に着任直後の養護教諭にとって、年度初めの4月早々から実施される全校の児童生徒を対象とした定期健康診断は、ときに職務適応や職場適応に関わるほどの問題となることが指摘されている<sup>3,4)</sup>。

定期健康診断を実施するには以下のような業務が必要となる。まず事前の活動として、学校行事における日程確保や、他の教育活動との兼ね合いを考慮したスケジュール調整、健康診断業者との各種調整、測定機器のメンテナンス、問診票等の書類の配布回収、校務分掌の関係部署との物理的、時間的調整、実施要項の作成、教職員への周知と協力依頼等が挙げられる。次に実施当日に向けた活動として、検診会場の設営、児童生徒集団の誘導、検診、測定、検診結果記入用紙の配布回収、測定や記録にあたる教職員への説明等がある。実施後には、測定値等の入力と集計、児童生徒への検診結果の返却および受診勧奨等の事後措置、検診結果の教育活動への活用、学校保健委員会での児童生徒の健康状態の動向の報告、健康診断を通じて明らかになった健康課題への対応、健康診断実施状況のPDCAサイクルを活用した次年度に向けた検討等が挙げられる。さらに、児童生徒の健康の保持増進を図るために実施される健康診断は、教育活動の一環として位置づけられており、児童生徒への事前指導や事後措置等の機会を活用した保健教育への展開が求められる。養護教諭は、他の教職員と協力しながら、これらの健康診断にまつわる業務における中心的な役割を担っている。すなわち、健康診断の実施には前述の養護教諭の5つの職務である、保健管理、保健教育、健康相談および保健指導、保健室経営、保健組織活動の要素が全般的に含まれているといえる。養成期間中に健康診断に関連する知識やスキルを確実に獲得することで、学校への着任直後の職務あるいは職場への適応感を高めるとともに、養護教諭としての職務全般の実践力を向上することが期待できる。

聖路加国際大学教職課程では、これまで学部4年次に健康診断実習として、実際に学校において定期健康診断

当日に、学生が測定や記録を担当する実習を設定していたが、新型コロナウイルスの影響や実習日程が確保できない等により実施が困難となった。また健康診断の実施当日以外の準備や事後措置といった一連の流れに関わる学習内容に課題があった。そこで学部3年次の養護概説の科目において、主に測定方法を中心に行ってきた健康診断演習を、より実際の場面に近づけるために、実施計画や会場設営、事後措置といった健康診断の一連の流れを含ませ、かつ養護教諭の職務全般のさまざまな要素を取り入れることを意識した内容に改変した。本稿では健康診断演習改変版を2023年度の養護概説受講学生18名に対し実践した内容を報告する。なお、学生の本演習へのアンケート結果の本論文における公表については、対象となる学生に対し文書により協力を依頼し、同意の有無に関するアンケートにより、公表への承諾の確認を行った。

## II. 「養護概説」における健康診断演習の概要

### 1. 養護概説の科目全体における健康診断演習の位置づけと演習目的および目標

養護概説は、養護教諭の役割を理解し、実践力の習得および実習への展望を持ち、養護教諭としての意識向上を目指すことを目的としている。科目目標は、「養護教諭が行う保健室経営、保健管理、保健教育、相談・援助、および組織活動などの実際について具体的に説明し、基礎的部分を実践できる」、「児童生徒の心身の健康状態及び発達段階における特性や課題を説明できる」、「養護教諭の資質や力量を高めるための養護教諭の実践に関する討議ができる」である。健康診断演習では、これらの目標を網羅するよう計画した。

また、本演習では健康診断の実践力だけでなく、職務全般の実践力の向上も目的とするため、演習目標および演習内容の検討にあたり、養護教諭の養成段階で必要とされる学修内容が網羅的に示された、養護教諭養成課程コアカリキュラムを活用した<sup>5)</sup>。本コアカリキュラムは、「養護及び養護教諭に関する基礎的理解」、「子供と子供を取り巻く環境の理解」、「養護実践の方法の基礎的・基本的理解」、「養護実践の展開の理解」の4個のテーマと、20個の一般目標、および78個の到達目標により構成されている。本演習が職務全般の実践力につながるよう、4個のすべてのテーマを網羅した、健康診断演習に活用可能な13個の一般目標を選定し、演習目標および演習内容に反映させた。

以上を踏まえ、本健康診断演習では、健康診断および職務全般における実践力の向上を演習目的とし、演習目標として、①健康診断の目的や教育的意義を説明できる、②健康診断の会場設営を一部実施できる、③学校保健活動(健康診断)の推進について一部実施およびディスカッ

ションできる、を設定した。

## 2. 演習内容

本演習では、特に入職直後に経験する、検診会場の設営、児童生徒への会場でのミニ保健教育、誘導、測定、次年度に向けた検討を取り上げる。また演習で扱う検査項目は、実際に養護教諭や一般教員が担うことが多い、体重および身長的身體測定、視力検査、聴力検査とした。

### 1) 検診会場の設営

学生は6名ずつの3グループに分かれ、対象とする学校種を選択し、それぞれ異なる教室で身体測定会場、視力検査会場、聴力検査会場を設営した。設営にあたっては、会場内の測定機器の配置や児童生徒の待機場所、必要な会場表示等を検討した。児童生徒や測定者の動線、プライバシーの確保、動線上の安全性、感染予防、児童生徒の予想される行動、測定時の留意点等を考慮しながら、実際の会場設営でも制約となりうる、検査会場の狭さや、出入口の位置、限られた数のパーティションやコンセント等をいかに活用するのか、実際の場面を想像しながら検討することを学生に促した。

### 2) 児童生徒への測定会場でのミニ保健教育、誘導、測定のロールプレイ

事前に、学部2年次の学校保健にて教授済みの測定方法や留意点、判定基準等を復習し、その後、教員による計測機器の取り扱い方法も含めた測定のデモンストレーションを行った。ロールプレイでは、学生は養護教諭等の教員役、児童生徒役に分かれ、教員役では誘導係や測定係、記録係に分かれた。ロールプレイでは、児童生徒が検診会場に到着した場面から始め、教員役から児童生徒役に対し、検査目的や意義と関連づけたミニ保健教育、誘導、測定、待機児童生徒役への指導を行った。児童生徒役の中には実際の場面へのイメージから、列から外れる子ども、おしゃべりに夢中になる子ども等を演じ、教員役が対応しながら進行するという臨場感のある雰囲気のもと実施された。

### 3) PDCAサイクルを活用した次年度に向けた改善案の検討

教職員向けの健康診断実施要項の改良版の作成を通して、次年度への改善案を検討した。不完全な実施要項を提示し、架空の健康診断当日の問題点を記したメモ、および上記1)、2)の演習体験を踏まえ、改善策や教職員の協働性を高めるための工夫等についてグループで検討し、実施要項を修正した。課題や問題点のメモの具体的な内容は、「高校1年生は、心電図検査とレントゲン検査があり衣服の着脱を素早く行うために体操服に着替

える必要があるが、各クラスの数人が体操服を忘れボタンのある制服で会場に来たため進行に遅れが生じた」、  
「新入生で上着に名前がなく、心電図検査後に自分の上着を探すのに時間がかかっていた」、  
「体育館で身体測定を行うため、出入口のシートの上に脱いだ靴を置くようにしたが、靴が散乱し自分の靴を探すのに時間がかかり、次の検査会場への到着が遅れた」等である。学生はこれらの問題点を解消するための方策や、検討した方策を実施要項を介して教職員に効果的に周知する方法の工夫についてグループで討議した。

## Ⅲ. 学生の学びと演習目的との関連

本健康診断演習の実施後に、学生に対し印象に残ったことや考察について、アンケートを行った。その結果、主に、「健康診断に関わる知識やスキルに対する自身に必要とされる学習に関する内容」、「対象の特性に合わせた保健活動の工夫に関する内容」、「教職員との協働への工夫に関する内容」の3つに分類された。本演習を通じ、学生は実践での場面を想起し、自己の知識やスキルの獲得状況、およびそれに基づく学習課題を明確化させたことが示唆された。また健康診断に限定されない職務全般に応用可能な、支援対象である児童生徒や協働対象である教職員への理解、およびそれに伴う養護教諭としての役割や職務上の工夫への気づきを確認された。以上から、本演習は教育現場で役立つ知識とスキルの獲得につながり、演習目的である、健康診断および職務全般における実践力を向上させる可能性が示唆された。なお、学生のアンケート内容の掲載にあたり、プライバシー項目は削除し、意味内容が分かるように筆者により一部加筆した。加筆部分は（ ）でくくった。

### 1. 健康診断に関わる知識やスキルに対する自身に必要とされる学習に関する内容

「視力検査を行なうとき、やり方を理解していても、実際に判断するとき少し時間がかかってしまったので、慣れるまで練習が必要だと感じた」、  
「実際に一連の流れを考慮して健康診断やミニ健康教育を行ってみたことで、生徒たちの動きによって起こりうるリスクと、自分達、養護教諭側の機械操作の知識不足に対するリスクが顕著になり、リスクを想定して先に対処しておくことで、当日予想していなかったことが起きても、ある程度対処できるようになるのだと感じた」、  
「(協力を依頼する際)養護教諭の伝え方によって担任の先生の理解度が左右されると思うので、簡潔に分かりやすく伝える練習もしていこうと思った」、  
「聴力検査の設営をした際、聞こえなかった人に対して、機械の調子が良くないのかと焦ってしまった。機械の使い方も練習が必要と感じたの



で、子供に不安感を与えない様に、淡々と検査を出来るようにしたい」

## 2. 対象の特性に合わせた保健活動の工夫に関する内容

「小学生だと、実際に検査をやっている時よりも待機場所で待っている時の方が、緊張感がなくなり、ケガやトラブルになりやすいと感じた」, 「身長・体重の測定では、プライバシーに配慮する必要があること、聴力検査では、児童生徒から聞こえている反応が見られなくても、児童生徒が慌て、不安な気持ちにならないように、動じることなく進める必要があることなど、養護教諭にはどの場面でも児童生徒の目線で物事を考える必要があることが印象に残った」, 「ホワイトボードに詳しく方法を書き, “静かにする”, “こっちに並ぶ” 等の注意事項を紙に書いて貼り視覚的に伝えると, 子どもたちにもわかりやすいと思った」

## 3. 教職員との協働への工夫に関する内容

「(教職員に) 同じ内容を伝える時でも, 書き方や表の作り方を工夫することで見落としが減り, ミスなく健康診断を行えるのだとわかった」, 「毎年どんな抜けが多いのか, どのところで問題が生じやすいのかなども先生方に伝えることで去年の問題点を解決することにつながるのではないかと感じた」, 「健康診断の生徒の動き方を先生方に説明することはとても難しいと思った。先生方から毎年やっているから分かるだろうとは思わず, 毎年, しっかりと教員に伝えることが, 円滑で有効な健康診断につながる感じた。そのために, 大事なところは強調する, 別で伝えるなどの工夫が必要であると感じた」

## IV. 今後の課題

本健康診断演習を通じて, 養護教諭としての健康診断および職務全般の実践力向上に向けた取り組みを行った。学生の取り組み状況や授業後アンケートの内容から, 本演習目標は一定程度, 達成できたことが考えられる。一方で, 課題として, 3点挙げられる。まず第1に, 本演習から得られる健康診断に関する実践力と, 最終的に

期待する養護教諭の職務全般への実践力との連動である。健康診断の一連の流れを体験することが, さまざま職務を網羅的に体験することになると考えられるが, 学生自身が, 本演習での学びを他の職務に応用できると認識できるように, 十分な説明が必要であると考えられる。第2に, 各学生が明確化させた学習課題へのフォローである。今回, アンケートから自身にどのような学びが必要か具体的に示された。今後個々の学びを促進する体制を, 養護実習との連動性を踏まえ検討していきたい。第3に, 時間的な課題である。本演習がややタイトなタイムスケジュールでの実施となったため, 科目内での時間配分の再検討が必要である。以上を踏まえ, 今後, 健康診断演習の内容, および養護概説の科目全体の配置等を再検討する必要があると考えられる。

## 引用文献

- 1) 文部科学省. 養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議 議論の取りまとめ(令和5年1月17日) [Internet] [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/178/mext\\_00002.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/178/mext_00002.html) [参照 2023-10-20]
- 2) 文部科学省 中央教育審議会. 子どもの心身の健康を守り, 安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について (答申)[Internet] [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afiedfile/2009/01/14/001\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afiedfile/2009/01/14/001_4.pdf) [参照 2023-10-20]
- 3) 鈴木菜々, 岡本美和子, 重田唯子, 鈴木一宏. 新任養護教諭が抱える困難とその対処に関する研究. 日本体育大学紀要. 2017;46(2):137-149.
- 4) 浦口真奈美, 藤生英行. 養護教諭の悩む場面に関する検討. 日本心理学会大会発表論文集. 日本心理学会第84回大会会議録. 2020. [Internet] [https://doi.org/10.4992/pacjpa.84.0\\_PP-028](https://doi.org/10.4992/pacjpa.84.0_PP-028) [参照 2023-10-20]
- 5) 大川尚子, 下村淳子, 青柳直子ほか. 養護教諭養成課程コアカリキュラム (養大協版) 2020の開発 —多様な学問体系の大学に活用できるコアカリキュラムの提案—. 学校保健研究. 2021;63:91-101.